



613-002295 Rev.B 170703

産業用ギガビット・インテリジェント・スイッチ

CentreCOM® *IE200*シリーズ

取扱説明書

CentreCOM® IE200 シリーズ

取扱説明書

本製品のご使用にあたって

本製品は、医療・原子力・航空・海運・軍事・宇宙産業など人命に関わる場合や高度な安全性・信頼性を必要とするシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んだ使用を意図した設計および製造はされていません。

したがって、これらのシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んで本製品が使用されることによって、お客様もしくは第三者に損害が生じても、かかる損害が直接的または間接的または付随的なものであるかどうかにかかわらず、弊社は一切の責任を負いません。

お客様の責任において、このようなシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んで使用する場合には、使用環境・条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策・火災延焼対策などの安全性・信頼性の向上対策を施すなど万全を期されるようご注意願います。

安全のために



必ずお守りください



警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物はいれない 水は禁物

火災や感電のおそれがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源ケーブル・プラグを抜き、弊社サポートセンターまたは販売店にご連絡ください。



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電のおそれがあります。

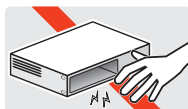


設置場所注意

取り付け・取り外しのときはコネクター・回路部分にさわらない

感電の原因となります。

稼働中に周辺機器の取り付け・取り外し（ホットスワップ）に対応した機器の場合でも、コネクターの接点部分・回路部分にさわらないように注意して作業してください。



感電注意

表示以外の電圧では使用しない

火災や感電の原因となります。

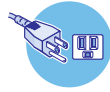
製品の取扱説明書に記載の電圧で正しくお使いください。なお、AC電源製品に付属の電源ケーブルは100V用ですのでご注意ください。



電圧注意

正しい配線器具を使用する

本製品に付属または取扱説明書に記載のない電源ケーブルや電源アダプター、電源コンセントの使用は火災や感電の原因となります。



正しい器具

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

設置・移動のときは電源ケーブル・プラグを抜く

感電の原因となります。



ケーブルを
抜く

ケーブル類を傷つけない

特に電源ケーブルは火災や感電の原因となります。

ケーブル類やプラグの取扱上の注意

- ・加工しない、傷つけない。
- ・重いものを載せない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・ケーブル類をコンセントなどから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



傷つけない

光源をのぞきこまない

目に傷害を被る場合があります。

光ファイバーインターフェースを持つ製品をお使いの場合は、光ファイバーケーブルのコネクタ、ケーブルの断面、製品本体のコネクタなどをのぞきこまないでください。



のぞかない

適切な部品で正しく設置する

取扱説明書に従い、適切な設置部品を用いて正しく設置してください。指定以外の設置部品の使用や不適切な設置は、火災や感電の原因となります。



正しく設置

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください

- ・直射日光のあたる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（仕様に定められた環境条件下でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、シュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所

静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊されるおそれがありますので、コネクタの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。

取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えたりしないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、固く絞ったもので拭き、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

お手入れには次のものは使わないでください

石油・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん・みがき粉
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書きに従ってください）

はじめに

このたびは、CentreCOM IE200シリーズをお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

CentreCOM IE200シリーズは、DINレールマウントに対応したインダストリアル・ギガビット・スイッチです。

AT-IE200-6GTは10/100/1000BASE-Tポートを4ポート、SFPスロットを2スロット、AT-IE200-6GPは10/100/1000BASE-T PoEポートを4ポート、SFPスロットを2スロット装備しています。

AT-IE200-6GPの10/100/1000BASE-T PoEポートはIEEE 802.3at準拠のPoE(Power over Ethernet) 給電機能に対応し、1ポートあたり30W、システム全体で120Wまでの電力供給が可能です。

産業用途では一般的なDC電源入力に対応し、ポート、LEDを本体前面、電源入力部を本体天面に集約しているため、DINレール設置時の作業性にも優れています。また産業用として求められる各種規格にも準拠しており、過酷な環境下でも安心して使用できます。

最大で-40～70℃の動作時温度に対応し、高温環境下への設置が可能です。ファンレス設計で、粉塵の吸い込みなどによる障害への不安もありません。

本製品搭載のファームウェア「AlliedWare Plus(AW+)」は、各機能がモジュールとして分割されており、単一の障害が与える影響範囲を最小限に抑えることができるシステムになっています。これにより、旧来の方式の製品と比べシステム全体の可用性が格段に高まります。

また、業界標準のコマンド体系に準拠し、他社製品からの移行においても、エンジニアの教育にかかる時間と経費を大幅に削減することができます。

Telnet、コンソールポートから各機能の設定が可能で、ユーザーインターフェースはコマンドライン形式をサポートしています。また、SNMP機能の装備により、SNMPマネージャーから各種情報を監視・設定することができます。

最新のファームウェアについて

弊社は、改良(機能拡張、不具合修正など)のために、予告なく本製品のファームウェアのバージョンアップやパッチレベルアップを行うことがあります。また、ご購入時に機器にインストールされているファームウェアは最新でない場合があります。

お使いの前には、ファームウェアのバージョンをご確認いただき、最新のものに切り替えてご利用くださいますようお願いいたします。

最新のファームウェアは、弊社ホームページからご入手いただけます。

なお、最新のファームウェアをご利用の際は、必ず弊社ホームページに掲載のリリースノートの内容をご確認ください。

<http://www.allied-tesis.co.jp/>

マニュアルの構成

本製品のマニュアルは、次の3部で構成されています。

各マニュアルは弊社ホームページに掲載しておりますので、よくお読みのうえ、本製品を正しくご使用ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

○ 取扱説明書（本書）

本製品のご使用にあたり、最初に必要な準備や設置のしかたについて説明しています。設置や接続を行う際の注意事項も記載されていますので、ご使用前に必ずお読みください。

○ コマンドリファレンス

本製品で使用できるすべての機能とコマンドについて詳しく説明しています。各機能の使用法やコマンドの解説に加え、具体的な設定例も数多く掲載しています。

トップメニュー

各章へのリンクが表示されます。各章は機能別におおまかなグループ分けがされています。



コマンドリファレンス画面

○ リリースノート





ファームウェアリリースで追加された機能、変更点、注意点や、取扱説明書とコマンドリファレンスの内容を補足する最新の情報が記載されています。

はじめに


表記について

アイコン

このマニュアルで使用しているアイコンには、次のような意味があります。

アイコン	意味	説明
 ヒント	ヒント	知っていると便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。
 注意	注意	物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。
 警告	警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
 参照	参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

書体

書体	意味
Screen displays	画面に表示される文字は、タイプライター体で表します。
User Entry	ユーザーが入力する文字は、太字タイプライター体で表します。
	四角枠で囲まれた文字はキーを表します。

製品名の表記

本書は、以下の製品を対象に記述されています。

- AT-IE200-6GT
- AT-IE200-6GP

「本製品」と表記している場合は、特に記載がないかぎり、AT-IE200-6GT、AT-IE200-6GPの2製品を意味します。

製品の図や画面表示例は、特に記載がないかぎり、AT-IE200-6GTを使用しています。

画面表示

本書で使用されている画面表示例は、開発中のバージョンを用いているため、実際の製品とは異なる場合があります。また、旧バージョンから機能的な変更がない場合は、画面表示などに旧バージョンのものを使用する場合があります。あらかじめご了承ください。

目次

安全のために	4
はじめに	6
最新のファームウェアについて	6
マニュアルの構成	7
表記について	8
目次	9
1 お使いになる前に	13
1.1 梱包内容	14
1.2 概要	15
特長	15
オプション (別売)	15
1.3 各部の名称と働き	17
前面	17
背面	20
天面	21
1.4 LED表示	22
ポートLED	22
SFPスロットLED	23
ステータスLED	24
2 設置と接続	25
2.1 設置方法を確認する	26
設置するときの注意	27
2.2 DINレールに取り付ける	28
設置について	28
DINレールへの取り付けかた	29
2.3 壁面に取り付ける	30
設置について	30
壁面への取り付けかた	30
2.4 SFPを取り付ける	32
SFPの取り付けかた	32

目次

2.5 ネットワーク機器を接続する	34
ケーブル	34
接続のしかた	35
2.6 PoE対応の受電機器を接続する	36
本製品のPoE給電仕様	36
ケーブル	38
接続のしかた	38
2.7 コンソールを接続する	39
コンソール	39
ケーブル	39
接続のしかた	40
2.8 アース線を取り付ける	41
2.9 アラーム装置を接続する	42
アラーム入力	42
アラーム出力	43
ケーブル	43
接続のしかた	43
2.10 DC電源に接続する	46
ケーブル	46
接続のしかた	46
システム電源の冗長化	48
2.11 設定の準備	49
コンソールターミナルを設定する	49
本製品を起動する	49
2.12 操作の流れ	51
3 付録	55
3.1 困ったときに	56
自己診断テストの結果を確認する	56
LED表示を確認する	57
ログを確認する	57
トラブル例	59
3.2 仕様	63
コネクタ・ケーブル仕様	63
本製品の仕様	66

3.3 保証とユーザーサポート	68
保証、修理について	68
ユーザーサポート	68
サポートに必要な情報	68

1

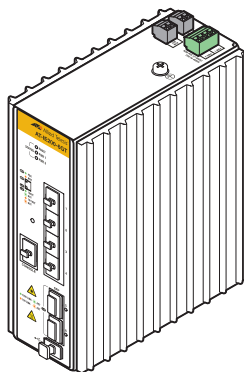
お使いになる前に

この章では、本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働きについて説明します。

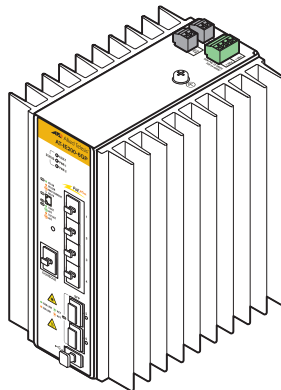
1.1 梱包内容

最初に梱包箱の中身を確認してください。

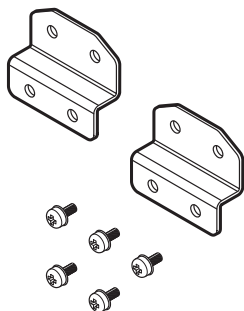
- 本体 いずれか1台
- ※ 各ポート/スロットに
ダストカバーが付属しています。



AT-IE200-6GT



AT-IE200-6GP



- ウォールマウントキット 1式
 - ・ブラケット 2個
 - ・ブラケット用ネジ (M4×8mm 座金付きなべネジ) 5個
- ※ ネジのうち1個は予備のネジです。



- 本製品をお使いの前に 1部
- 梱包内容 1部



- 英文製品情報※ 1部
- 製品保証書 1部
- シリアル番号シール 2枚

※ 日本語版マニュアルのみに従って、
正しくご使用ください。

本製品を移送する場合は、ご購入時と同じ梱包箱で再梱包されることが望めます。再梱包のために、本製品がおさめられていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

1.2 概要

本製品のハードウェア的な特長とオプション（別売）製品を紹介します。オプション製品のリリース時期については最新のリリースノートやデータシートをご覧ください。

特長

- 産業用途のDC電源入力に対応。
AT-IE200-6GTはDC12-48V、AT-IE200-6GPはDC24-48Vの入力電圧に対応
- 動作時温度を最大で-40～70℃保証
- 小型サイズ、ファンレス設計
- 本体付属の取付金具でDINレールへの設置が可能
- 同梱のウォールマウントキットで壁面への設置が可能
- ポート、LEDを本体前面、電源入力部を本体天面に集約し、DINレール設置時の作業性を確保
- (AT-IE200-6GT) 10/100/1000BASE-Tポートを4ポート、SFPスロットを2スロット装備
- (AT-IE200-6GP) 10/100/1000BASE-T PoEポートを4ポート、SFPスロットを2スロット装備。PoEポートは、IEEE 802.3at準拠のPoE (Power over Ethernet) 給電機能に対応
- 本製品の異常や、外部センサーを用いた周辺環境の変化を、LED表示や、ブザーなど外部アラーム装置への出力といった方法で通知することが可能（アラームモニタリング機能）。
- CLIでポートのLEDを消灯させる設定が可能（エコLED機能）
- USBポート経由でファームウェアや設定ファイルの持ち運び、バックアップ、インストールが可能

オプション（別売）

- SFPモジュールによりポートの拡張が可能
 - AT-SPFX/2 100BASE-FX (2km) (2連LC)
 - AT-SPFX/15 100BASE-FX (15km) (2連LC)
 - AT-SPFXBD-LC-13・AT-SPFXBD-LC-15 100BASE-BX (15km) (LC)
 - AT-SPSX 1000BASE-SX (2連LC)
 - AT-SPSX2 1000M MMF (2km) (2連LC)
 - AT-SPLX10 1000BASE-LX (2連LC)
 - AT-SPLX10/I 1000BASE-LX (2連LC)
 - AT-SPLX40 1000M SMF (40km) (2連LC)
 - AT-SPZX80 1000M SMF (80km) (2連LC)

1.2 概要

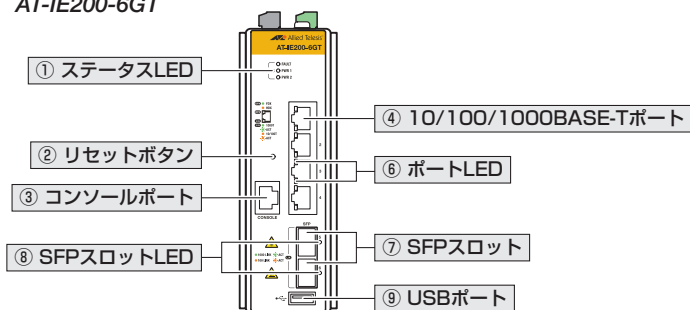
AT-SPBDM-A・AT-SPBDM-B 1000M MMF (550m) (LC)
AT-SPBD10-13・AT-SPBD10-14 1000BASE-BX10 (LC)
AT-SPBD40-13/I・AT-SPBD40-14/I 1000M SMF (40km) (LC)
AT-SPBD80-A・AT-SPBD80-B 1000M SMF (80km) (LC)

- 専用のコンソールケーブルキットでコンソールのシリアルポート、USBポートと接続
CentreCOM VT-Kit2 plus
- 専用のRJ-45/D-Sub 9ピン(メス)変換RS-232ケーブルでコンソールと接続
CentreCOM VT-Kit2
※ コンソール接続には「CentreCOM VT-Kit2 plus」または「CentreCOM VT-Kit2」が必要です。
- フィーチャーライセンスによりさらに高度な機能の追加が可能
AT-IE200-FL03 アプリケーションライセンス

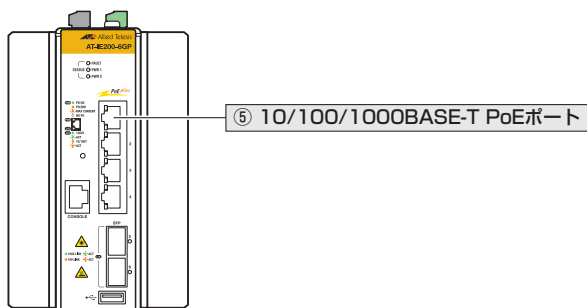
1.3 各部の名称と働き

前面

AT-IE200-6GT



AT-IE200-6GP



注意 コンソールポート、10/100/1000BASE-T (PoE) ポート、SFPスロット、USBポートにはご購入時にダストカバーが取り付けられています。ダストカバーは、各ポート/スロット使用時以外、はずさないようにしてください。

① ステータスLED

本製品全体の状態を表示するLEDランプです。

○ FAULT

本製品の異常を表します。

○ PWR 1/PWR 2

本製品の電源供給状態を表します。

本製品は電源入力の変長化 (2系統入力) に対応しているため、PWR 1とPWR 2の2つのLEDがあります。



参照 22ページ「LED表示」

1.3 各部の名称と働き

② リセットボタン

本製品を再起動するためのボタンです。

先の細い棒などでリセットボタンを押すと、本製品はハードウェア的にリセットされます。



鋭利なもの（縫い針など）や通電性のあるもので、リセットボタンを押さないでください。

③ コンソールポート

コンソールを接続するコネクタ（RJ-45）です。

ケーブルはオプション（別売）のコンソールケーブル「CentreCOM VT-Kit2 plus」または「CentreCOM VT-Kit2」を使用してください。


 39ページ「コンソールを接続する」

④ 10/100/1000BASE-Tポート

UTPケーブルを接続するコネクタ（RJ-45）です。

ケーブルは10BASE-Tの場合はカテゴリ 3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリ 5以上、1000BASE-Tの場合はエンハンスト・カテゴリ 5以上のUTPケーブルを使用します。

接続先のポートの種類（MDI/MDI-X）にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

 34ページ「ネットワーク機器を接続する」

⑤ 10/100/1000BASE-T PoEポート

UTPケーブルを接続するコネクタ（RJ-45）です。

接続先機器によって、使用可能なUTPケーブルのカテゴリが異なります。下表を参照してください。

—	PoE非対応の機器	PoE受電機器	
		IEEE 802.3af対応	IEEE 802.3at対応
10BASE-T	カテゴリ 3以上	カテゴリ 5以上	エンハンスト・カテゴリ 5以上
100BASE-TX	カテゴリ 5以上	カテゴリ 5以上	エンハンスト・カテゴリ 5以上
1000BASE-T		エンハンスト・カテゴリ 5以上	

接続先のポートの種類（MDI/MDI-X）にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

 36ページ「PoE対応の受電機器を接続する」

⑥ ポートLED

10/100/1000BASE-T (PoE) ポートと接続先の機器の通信状況を表示するLEDランプです。

AT-IE200-6GT

○ DPX (上側)

デュプレックス (Half/Full Duplex) を表します。

○ L/A (下側)

通信速度 (10・100/1000Mbps)、接続先の機器とのリンク、パケットの送受信を表します。

AT-IE200-6GP


○ POE (上側)

PoE 電源の供給状態を表示します。

○ L/A (下側)

通信速度 (10・100/1000Mbps)、接続先の機器とのリンク、パケットの送受信を表します。

ポートLEDは、CLI上のエコLED機能によって点灯させないように設定することもできます。

 22ページ「LED表示」

⑦ SFPスロット

オプション (別売) のSFPモジュール (以下、SFPと省略します) を装着するスロットです。

 32ページ「SFPを取り付ける」


⑧ SFPスロットLED

SFPポートと接続先の機器の通信状況を表示するLEDランプです。

○ L/A

接続先の機器とのリンク、パケットの送受信を表します。

SFPスロットLEDは、CLI上のエコLED機能によって点灯させないように設定することもできます。

 22ページ「LED表示」

⑨ USBポート

USBメモリーを接続するためのUSB 2.0のポートです。

ファームウェアファイルや設定ファイルの持ち運び、バックアップ、インストールに使用します。

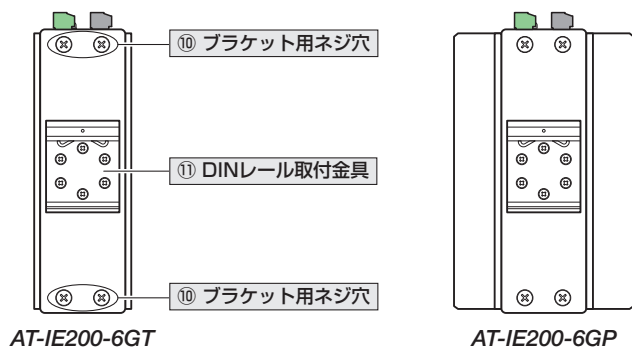


注意

- ・ご使用の際には、お客様の使用環境で事前に検証を行ったうえで導入してください。
- ・USBメモリー以外のものを接続しないでください。USB延長ケーブルやUSBハブを介した接続は動作保証をいたしませんのでご注意ください。


1.3 各部の名称と働き

背面



⑩ ブラケット用ネジ穴

同梱のウォールマウントキットのブラケットを取り付けるためのネジ穴です。ブラケットを取り付ける際には、ご購入時に取り付けられているネジをはずし、同梱のブラケット用ネジを使用します。

 本体背面に付属のネジは、ブラケットを取り付けるとき以外、はずさないようにしてください。
注意 また、同梱のブラケット用ネジを本体背面に直接取り付けないようご注意ください。

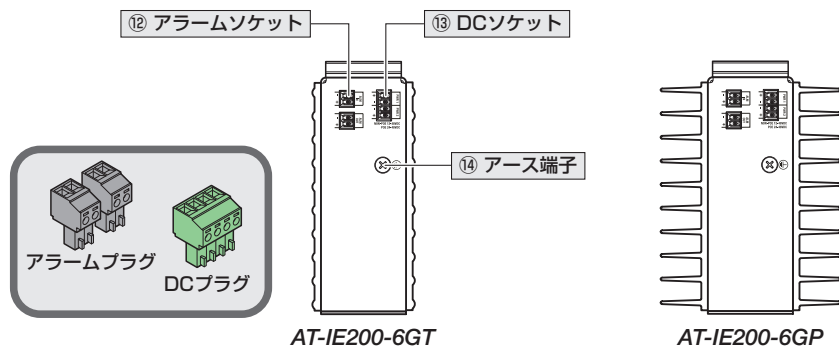
 参照 30ページ「壁面に取り付ける」

⑪ DINレール取付金具

本製品をDINレールに取り付けるための金具です。

 参照 28ページ「DINレールに取り付ける」

天面




⑫ アラームソケット (アラームプラグ)

アラームプラグを介して外部センサーやアラーム装置に接続するためのコネクタです。アラームソケットには、ご購入時にアラームプラグ (黒のプラグ) が2個取り付けられています。

本製品はアラームの入出力に対応しているため、アラームソケットは入力用 (ALM IN) と出力用 (ALM OUT) の2個の端子で構成されています。2個のアラームプラグ自体に違いはありません。

アラームケーブルは、UL規格に対応した24AWG～18AWG (線径0.511mm～1.024mm) の銅線を別途ご用意ください。本製品にアラームケーブルは同梱されていません。

 **参照** 42ページ「アラーム装置を接続する」

⑬ DCソケット (DCプラグ)

DCプラグを介してDC電源に接続するためのコネクタです。DCソケットには、ご購入時にDCプラグ (緑のプラグ) が1個取り付けられています。


本製品は電源入力の冗長化 (2系統入力) に対応しているため、DCソケットはPWR 1とPWR 2の2系統の入力端子で構成されています。

DC電源ケーブルは、UL規格に対応した18AWG (線径1.024mm) 以上の銅線を別途ご用意ください。本製品にDC電源ケーブルは同梱されていません。

 **参照** 46ページ「DC電源に接続する」

⑭ アース端子

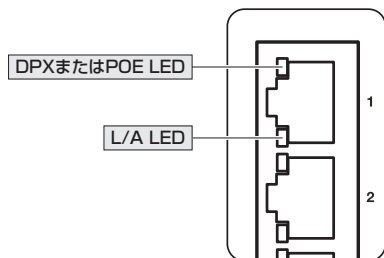
アース線を接続するコネクタです。この端子を使用して、必ずアースを接続してください。

 **参照** 41ページ「アース線を取り付ける」

1.4 LED 表示

本体前面には、本製品全体や各ポートの状態を示すLEDが付いています。

ポート LED



AT-IE200-6GT

10/100/1000BASE-Tポートの状態を表します。

LED	色	状態	表示内容
DPX (上側)	緑	点灯	Full Duplexでリンクが確立しています。
	橙	点灯	Half Duplexでリンクが確立しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。
	—	消灯	CLI上のエコLED機能によって消灯に設定されています。
L/A (下側)	緑	点灯	1000Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	1000Mbpsでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	10/100Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	10/100Mbpsでパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。
		消灯	CLI上のエコLED機能によって消灯に設定されています。

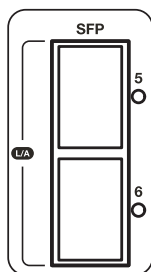
AT-IE200-6GP

10/100/1000BASE-T PoE ポートの状態を表します。

LED	色	状態	表示内容
POE (上側)	緑	点灯	受電機器にPoE電源を供給しています。
	橙	点灯	受電機器(または受電機器との間)に異常があります。
	—	消灯	受電機器にPoE電源が供給されていません。
			PoE非対応の機器が接続されています。 CLI上のエコLED機能によって消灯に設定されています。
L/A (下側)	緑	点灯	1000Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	1000Mbpsでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	10/100Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	10/100Mbpsでパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。
			CLI上のエコLED機能によって消灯に設定されています。

SFP スロット LED

SFPポートの状態を表します。

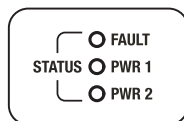


LED	色	状態	表示内容
L/A	緑	点灯	SFPを介して、1000Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	SFPを介して、1000Mbpsでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	SFPを介して、100Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	SFPを介して、100Mbpsでパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。
			CLI上のエコLED機能によって消灯に設定されています。

1.4 LED 表示

ステータス LED

本製品全体の状態を表します。



LED	色	状態	表示内容
FAULT	赤	点灯	本製品起動中です。
		5回点滅	本製品でアラームが発生しています。
	6回点滅	本製品の内部温度に異常があります。	
—	消灯	本製品に異常はありません。	
PWR 1/PWR 2	緑	点灯	本製品に電源が供給されています。
	—	消灯	本製品に電源が供給されていません。

2

設置と接続

この章では、本製品の設置方法と機器の接続について説明しています。

2.1 設置方法を確認する

本製品は次の方法による設置ができます。

- 本体付属の取付金具によるDINレールへの設置
DIN規格35mmのレール上に装着できます。
- ウォールマウントキットによる壁面への設置
同梱のウォールマウントキットを使用して壁面に設置できます。
- 平らな場所への設置
本製品の底面を下にして、卓上や棚などの平らな場所に直接置きます。
底面以外の面を下にして設置することはできません。



弊社指定品以外の設置金具を使用した設置を行わないでください。また、本書に記載されていない方法による設置を行わないでください。不適切な方法による設置は、火災や故障の原因となります。



製品に関する最新情報は弊社ホームページにて公開しておりますので、設置の際は、付属のマニュアルとあわせてご確認のうえ、適切に設置を行ってください。

設置するときの注意

本製品の設置や保守をはじめの前に、必ず4ページ「安全のために」をよくお読みください。

設置については、次の点にご注意ください。

- 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような設置は避けてください。
- テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
- 十分な換気ができるように、本製品の通気口をふさがないように設置してください。
- 傾いた場所や不安定な場所に設置しないでください。
- 底面を上にして設置しないでください。
- 本製品の上に物を置かないでください。
- 直射日光の当たる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所、強電界・強磁界・静電気などによるノイズが発生する場所に設置しないでください。
- 急激な温度変化を与えないでください。結露により故障の原因になります。
- コネクターの端子にさわらないでください。静電気を帯びた手(体)で、コネクターの端子に触れると静電気の放電により故障の原因になります。
- 本製品内部に切粉や配線クズが入らないように注意してください。火災や故障の原因になります。
- 通電中や電源を切った直後は、本体に触れないでください。やけどの原因になります。
- 本製品は屋外ではご使用になれません。
- 本製品は防爆エリアではご使用になれません。防爆エリアとは、可燃性のガスや蒸気が存在する危険場所で、爆発や火災を防ぐため、防爆構造の電気機器の使用が義務づけられている区域を指します。

動作時温度

本製品の動作時温度は最大-40～70℃で、これはSFPスロットおよびUSBポート未使用時、AT-IE200-6GPの場合はPoE非給電時の値です。

製品の使用条件によって、動作時温度の上限が下表のとおり異なりますので、ご注意ください。

AT-IE200-6GT		AT-IE200-6GP	
—		PoE 120W 給電時	60℃
—		PoE 62W 給電時	65℃
AT-SPSX2・AT-SPLX10/I使用時	65℃※	AT-SPSX2・AT-SPLX10/I使用時	60℃※
AT-SPSX2・AT-SPLX10/I以外のSFP使用時	45℃※	AT-SPSX2・AT-SPLX10/I以外のSFP使用時	45℃※
USBポート使用時	45℃	USBポート使用時	45℃

※ SFP使用時の動作時温度の下限はSFPの仕様に準じます。

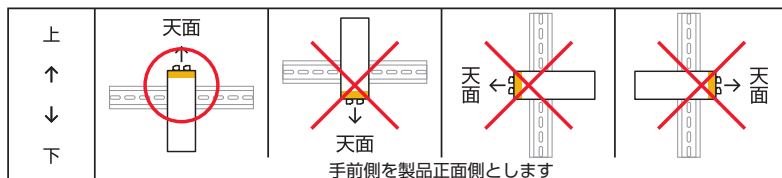
2.2 DIN レールに取り付ける

本体背面に付属のDINレール取付金具を使用して、DIN規格35mmのレール上に取り付けることができます。

設置について

設置方向

必ず下図の○の方向に設置してください。



警告

- 必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。

- DINレール取付金具を使用して確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。



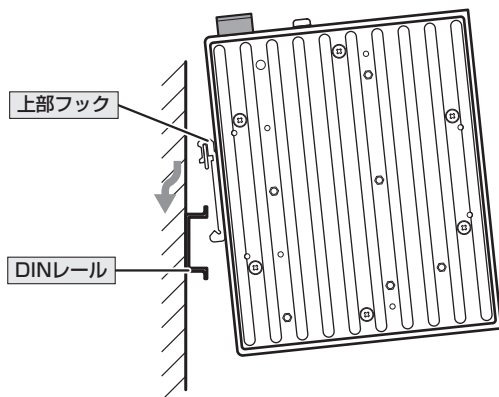
注意

DINレールを使用して本製品を制御盤内に設置する場合は、盤内温度の上昇に充分配慮をして、盤内の温度が本製品の動作時温度範囲を超えないようご注意ください。動作時温度は、製品の使用条件によって異なります。詳しくは27ページ「動作時温度」をご覧ください。

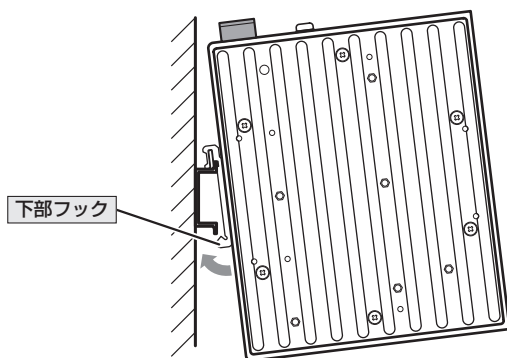
DIN レールへの取り付けかた

取り付け

- 1 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずします。
- 2 本体背面DIN レール取付金具の上部フックをDIN レールの上側に引っかけます。



- 3 下部フックでDIN レールの下側を挟み込むようにして、カチッとはまるまで本体を押し込みます。



取りはずし

本体を手前に引き上げるようにして、DIN レールから下部フックをはずします。

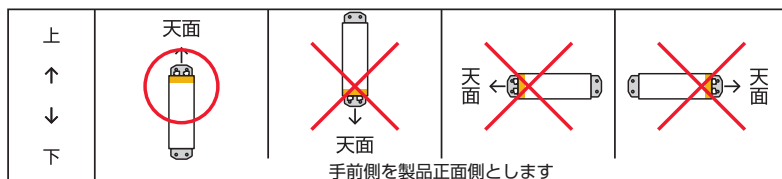
2.3 壁面に取り付ける

本製品は同梱のウォールマウントキットを使用して、壁面に取り付けることができます。

設置について

設置方向

必ず下図の○の方向に設置してください。



- 必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。
- ブラケットおよびブラケット用ネジは必ず同梱のものを使用してください。同梱以外のネジなどを使用した場合、火災や感電、故障の原因となることがあります。
- 本製品を壁面へ取り付ける際は適切なネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。



本製品に壁面への取り付け用ネジは同梱されていません。壁面の強度などをご確認のうえ、適切な長さとお太さのネジを別途ご用意ください。壁面への取り付けには4個のネジが必要です。

壁面への取り付けかた



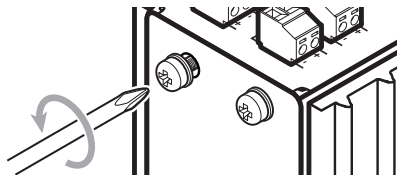
本体背面に付属のネジは、ブラケットを取り付けるとき以外、はずさないようにしてください。また、同梱のブラケット用ネジを本体背面に直接取り付けないようご注意ください。



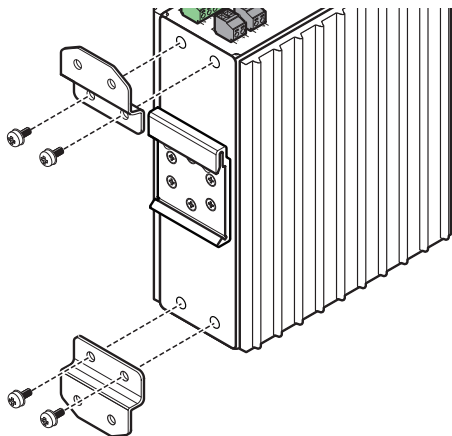
本製品へのブラケットの取り付けには同梱のブラケット用ネジを4個使用します。残り1個は予備として保管しておいてください。

取り付け

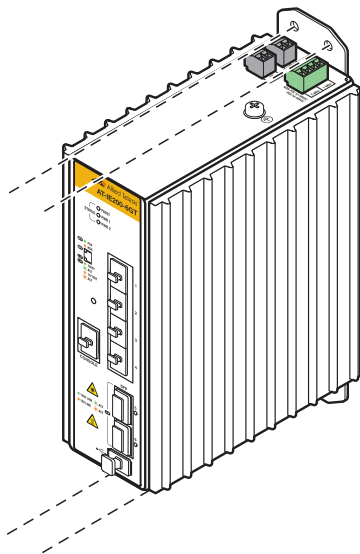
- 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずします。
- 本体背面に付属のネジを取りはずします。



- 3** 同梱のブラケット用ネジを使用して、本体背面の上下にブラケットを取り付けます。



- 4** 各ブラケットにつき2か所ずつ、設置面に適したネジを用いて、壁面に固定します。



2.4 SFP を取り付ける

SFPの取り付けかたを説明します。

本製品にはオプション(別売)で以下のSFPが用意されています。

AT-SPFX/2	100BASE-FX (2km) (2連LC)
AT-SPFX/15	100BASE-FX (15km) (2連LC)
AT-SPFXBD-LC-13・AT-SPFXBD-LC-15	100BASE-BX (15km) (LC)
AT-SPSX	1000BASE-SX (2連LC)
AT-SPSX2	1000M MMF (2km) (2連LC)
AT-SPLX10	1000BASE-LX (2連LC)
AT-SPLX10/I	1000BASE-LX (2連LC)
AT-SPLX40	1000M SMF (40km) (2連LC)
AT-SPZX80	1000M SMF (80km) (2連LC)
AT-SPBDM-A・AT-SPBDM-B	1000M MMF (550m) (LC)
AT-SPBD10-13・AT-SPBD10-14	1000BASE-BX10 (LC)
AT-SPBD40-13/I・AT-SPBD40-14/I	1000M SMF (40km) (LC)
AT-SPBD80-A・AT-SPBD80-B	1000M SMF (80km) (LC)



注意

弊社販売品以外のSFPでは動作保証をいたしませんのでご注意ください。



ヒント

SFPの仕様については、SFPに付属のインストラクションガイドを参照してください。

SFP の取り付けかた



警告

- ・ 静電気の放電を避けるため、SFP取り付け・取りはずしの際には、ESDリストストラップをするなど静電防止対策を行ってください。
- ・ SFPはクラス1レーザー製品です。本製品装着時に光ファイバーケーブルやコネクタをのぞきこまないでください。目に傷害を被る場合があります。



注意

SFPスロット、およびコネクタのダストカバーは、SFPを使用するとき以外、はずさないようにしてください。

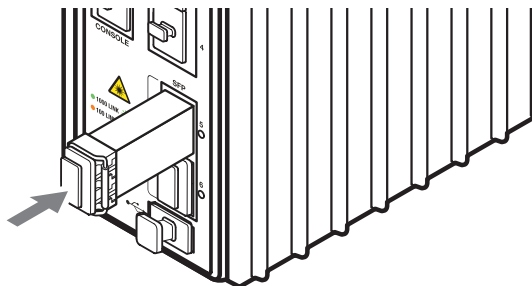


ヒント

- ・ SFPはホットスワップ対応のため、取り付け・取りはずしの際に、本体の電源を切る必要はありません。異なる種類(型番)のモジュールへのホットスワップも可能です。
- ・ SFPには、スロットへの固定・取りはずし用にハンドルが付いているタイプとボタンが付いているタイプがあります。形状は異なりますが、機能的には同じものです。

取り付け

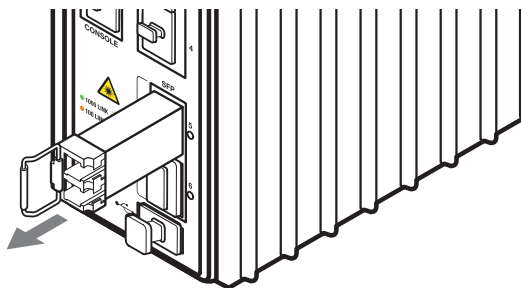
- 1 SFPスロットに付いているダストカバーをはずします。
- 2 SFPの両脇を持ってスロットに差し込み、カチッとハマるまで押し込みます。ハンドルが付いているタイプはハンドルを上げた状態（SFPに沿わせた状態）で差し込んでください。



- 3 SFPに付いているダストカバーをはずします。

取りはずし

- 1 各ケーブルをはずします。
- 2 ボタンが付いているタイプはボタンを押して、ハンドルが付いているタイプはハンドルを下げて（SFPから離れた状態にして）、スロットへの固定を解除します。
- 3 SFPの両脇を持ってスロットから引き抜きます。



2.5 ネットワーク機器を接続する

本製品にコンピューターや他のネットワーク機器を接続します。

ケーブル

使用ケーブルと最大伝送距離は以下のとおりです。

ポート	使用ケーブル	最大伝送距離
10/100/1000BASE-T*1	10BASE-T : UTPカテゴリ-3以上 100BASE-TX: UTPカテゴリ-5以上 1000BASE-T: UTPエンハンスド・カテゴリ-5以上	100m
100BASE-FX ・AT-SPFX/2	GI 50/125 マルチモードファイバー GI 62.5/125 マルチモードファイバー	2km
100BASE-FX ・AT-SPFX/15	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	15km
100BASE-BX ・AT-SPFXBD-LC-13・15	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	15km
1000BASE-SX ・AT-SPSX	GI 50/125 マルチモードファイバー	550m (伝送帯域500MHz・km時)
	GI 62.5/125 マルチモードファイバー	275m (伝送帯域200MHz・km時)
長距離用 1000Mbps 光 ・AT-SPSX2	GI 50/125 マルチモードファイバー	1km
	GI 62.5/125 マルチモードファイバー	2km
1000BASE-LX ・AT-SPLX10	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	10km
	GI 50/125 マルチモードファイバー*2	550m
	GI 62.5/125 マルチモードファイバー*2	(伝送帯域500MHz・km時)
1000BASE-LX ・AT-SPLX10//	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	10km
長距離用 1000Mbps 光 ・AT-SPLX40	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	40km
長距離用 1000Mbps 光 ・AT-SPZX80	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	80km*3
1心双方向 1000Mbps 光 ・AT-SPBDM-A・B	GI 50/125 マルチモードファイバー	550m
	GI 62.5/125 マルチモードファイバー	
1000BASE-BX10 ・AT-SPBD10-13・14	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	10km
1心双方向 1000Mbps 光 ・AT-SPBD40-13//・14//	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	40km
1心双方向 1000Mbps 光 ・AT-SPBD80-A・B	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	80km

- ※ 1 PoE受電機器を接続する場合の使用ケーブルは、36ページ「PoE対応の受電機器を接続する」をご覧ください。
- ※ 2 マルチモードファイバーを使用する際には、対応するモード・コンディショニング・パッチコードを使用してください。
- ※ 3 使用ケーブルの損失が0.25dB/km以下、分散が20ps/nm・kmの場合です。

接続のしかた



PoE受電機器に接続する手順については、36ページ「PoE対応の受電機器を接続する」をご覧ください。

10/100/1000BASE-Tポート

MDI/MDI-X自動認識機能により、接続先のポートの種類(MDI/MDI-X)にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。本製品のMDI/MDI-X自動認識機能は、ポートの通信速度、デュプレックスの設定にかかわらず、どの通信モードでも有効にすることができます。

- 1 10/100/1000BASE-Tポートに付いているダストカバーをはずします。
- 2 本製品の10/100/1000BASE-Tポートに、UTPケーブルのRJ-45コネクタを差し込みます。
- 3 UTPケーブルのもう一端のRJ-45コネクタを、接続先機器の10/100/1000BASE-Tポートに差し込みます。

光ポート

光ファイバーケーブルはLCコネクタが装着されたものをご用意ください。AT-SPFXBDシリーズとAT-SPBDシリーズ以外のSFPで使用する光ファイバーケーブルは2本で1対になっています。本製品のTXを接続先の機器のRXに、本製品のRXを接続先の機器のTXに接続してください。AT-SPFXBDシリーズとAT-SPBDシリーズは、送受信で異なる波長の光を用いるため、1本の光ファイバーケーブルで通信ができます。

- 1 本製品のSFPポートに光ファイバーケーブルのコネクタを差し込みます。
- 2 光ファイバーケーブルのもう一端のコネクタを接続先機器の光ポートに差し込みます。

2.6 PoE 対応の受電機器を接続する

AT-IE200-6GPにPoE対応の受電機器を接続します。

本製品はクラス4受電機器への給電が可能なIEEE 802.3atに対応しています。給電方式はケーブルの信号線(1,2,3,6)を使用して給電を行うオルタナティブAを採用しています。

本製品のPoE給電仕様

本製品のPoE給電機能は、デフォルトでは、すべてのPoEポートで有効になっています。接続された受電機器の検出、電力クラスの識別を自動的に行い、必要に応じて給電を開始します。

接続された機器が受電機器ではなく通常のイーサネット機器だった場合は、給電を行わず通常の10/100/1000BASE-Tポートとして動作します。

1ポートあたりの最大供給電力は30W、システム全体の最大供給電力は120Wで、4ポート同時にクラス4受電機器への給電が可能です。

IEEE 802.3atで規定されている電力クラス分けについては、下表をご覧ください。

クラス	受電機器の電力(最大)	給電機器の電力
0	13.0 W	15.4 W
1	3.84 W	4.0 W
2	6.49 W	7.0 W
3	13.0 W	15.4 W
4	25.5 W	30.0W



ヒント

電力クラスは、CLIのshow power-inlineコマンドやshow power-inline interfaceコマンドで確認できます(Class欄やPowered device class欄)。

ポートへの電力の割り当て

本製品は、PoEポートに接続された受電機器の電力クラスを自動的に識別し、電力クラスに応じた電力を該当ポート用に割り当てます。

たとえば、PoEポートで検出された受電機器がクラス1だった場合、本製品は、この受電機器が実際に使用する電力量に関係なく、4W分の電力を該当ポートに割り当てます。これは、最大4Wまでの出力に対応できるよう、システム全体の最大供給電力のうち4W分を該当ポート用に確保するという意味です。

同様に、接続された受電機器がクラス2の場合は7W、クラス3の場合は15.4W、クラス4の場合は30Wの電力を確保します。

ポートに割り当てられる電力は、show power-inlineコマンド(非特権EXECモード)の「Max (mW)」で確認できます。クラス分けによる割り当ての場合は「[C]」、手動設定による割り当ての場合は、「[U]」が表示されます。受電機器の実際の電力使用量は「Power」に表示されます。

受電機器がLLDP-MEDに対応している場合、LLDP-MEDを利用した電力の割り当ても可能です。この場合、「Max (mW)」には「[L]」が表示されます。

ポートからの出力電力の上限

power-inline max コマンド (インターフェースモード) を使用すると、ポートごとに最大出力電力を任意に設定することができます。なんらかの理由でポートからの出力電力が上限値を超えた場合、該当ポートへの給電が停止されます。

デフォルトでは、すべてのポートで上限値が未設定です。未設定時は、接続された受電機器の電力クラスにおける最大出力電力が上限となります。

ポートからの出力電力が、クラス1受電機器の場合4W、クラス2受電機器の場合7W、クラス3受電機器の場合15.4W、クラス4受電機器の場合30Wを超えると、該当ポートへの給電が停止されます。

power-inline max コマンド設定時は、接続された受電機器の電力クラスにおける最大出力電力よりも小さい値の場合、設定された上限値を超えると給電を停止します。

異常高温時のPoEポート給電停止

本製品には、内部温度が既定のしきい値を超えたとき、PoEポートへの給電を停止することで、高温による部品へのダメージを回避する機能が備わっています。

デフォルトでは、内部温度が100℃を超えるとすべてのポートへの給電を同時に停止しますが、power-inline priority コマンド (インターフェースモード) で、ポートの給電優先度をcritical (最高) に設定することで、内部温度が104℃を超えるまで、該当ポートへの給電を継続させることもできます。

内部温度が85℃まで下がると、PoEポートへの給電は自動的に再開されます。

各しきい値に対するPoEポート給電停止仕様は、下表のとおりです。

内部温度のしきい値	本製品の動作
85℃	本機能により停止したPoEポートへの給電を再開
100℃	power-inline priority コマンドでlow (低)、high (高) に設定されたPoEポートへの給電を同時に停止 ※ low と high の動作に違いはありません。初期値は「low」です。
104℃	power-inline priority コマンドでcritical (最高) に設定されたPoEポートへの給電を同時に停止

2.6 PoE 対応の受電機器を接続する

ケーブル

UTPケーブルを使用します。

接続先機器によって、使用可能なUTPケーブルのカテゴリが異なります。下表を参照してください。

—	PoE非対応の機器	PoE受電機器	
		IEEE 802.3af対応	IEEE 802.3at対応
10BASE-T	カテゴリ3以上	カテゴリ5以上	エンハンスド・カテゴリ5以上
100BASE-TX	カテゴリ5以上	カテゴリ5以上	エンハンスド・カテゴリ5以上
1000BASE-T		エンハンスド・カテゴリ5以上	

MDI/MDI-X自動認識機能により、接続先のポートの種類(MDI/MDI-X)にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。本製品のMDI/MDI-X自動認識機能は、ポートの通信速度、デュプレックスの設定にかかわらず、どの通信モードでも有効にすることができます。



PoE受電機器の接続には、8線結線のストレートタイプのUTPケーブルをおすすめします。

接続のしかた



注意

- ・ 給電中のポートからケーブルを抜いた直後は電圧がかかっているため、ケーブルを抜き差しするなどして機器を接続しなす場合は、2、3秒間を空けてください。再接続の間隔が極端に短いと本製品や接続機器の故障の原因となる恐れがあります。
- ・ 本製品を給電機器(PSE)とカスケード接続する場合は、本製品のカスケードポートのPoE給電機能を無効に設定してください。カスケードポートを指定して、power-inline enable コマンド(インターフェースモード)をno形式で実行します。

- 1 10/100/1000BASE-T PoEポートに付いているダストカバーをはずします。
- 2 本製品の10/100/1000BASE-T PoEポートにUTPケーブルのRJ-45コネクタを差し込みます。
- 3 UTPケーブルのもう一端のRJ-45コネクタをPoE受電機器の10/100/1000BASE-T PoEポートに差し込みます。

2.7 コンソールを接続する

本製品に設定を行うためのコンソールを接続します。

本製品のコンソールポートはRJ-45コネクタを使用しています。弊社販売品のCentreCOM VT-Kit2 plus、またはCentreCOM VT-Kit2を使用して、本体前面コンソールポートとコンソールのシリアルポート（またはUSBポート）を接続します。



CentreCOM VT-Kit2 plus、またはCentreCOM VT-Kit2を使用した接続以外は動作保証を
注意 いたしませんのでご注意ください。

コンソール

コンソールには、VT100をサポートした通信ソフトウェアが動作するコンピューター、または非同期のRS-232インターフェースを持つVT100互換端末を使用してください。



通信ソフトウェアの設定については、49ページ「コンソールターミナルを設定する」で説明し
ヒント ます。

ケーブル

ケーブルは弊社販売品のCentreCOM VT-Kit2 plus、またはCentreCOM VT-Kit2をご使用ください。

- CentreCOM VT-Kit2 plus： マネージメントケーブルキット

以下のコンソールケーブルが3本セットになっています。

- ・ D-Sub 9ピン(オス)/D-Sub 9ピン(メス)
- ・ RJ-45/D-Sub 9ピン(メス)
- ・ D-Sub 9ピン(オス)/USB

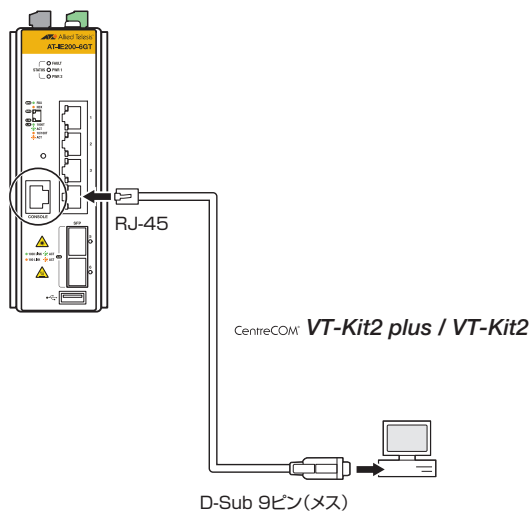
ご使用のコンソールのシリアルポート（D-Sub 9ピン）またはUSBポートへの接続が可能です。なお、USBポート使用時の対応OSは弊社ホームページにてご確認ください。


- CentreCOM VT-Kit2： RJ-45/D-Sub 9ピン(メス)変換RS-232ケーブル

2.7 コンソールを接続する

接続のしかた

- 1 コンソールポートに付いているダストカバーをはずします。
- 2 本製品のコンソールポートにコンソールケーブルのRJ-45コネクタ側を接続します。
- 3 コンソールケーブルのD-Subコネクタ側をコンソールのシリアルポートに接続します。



 ご使用のコンソールのシリアルポートがD-Sub 9ピン(オス)以外の場合は、別途変換コネクタを用意してください。

ヒント

2.8 アース線を取り付ける

本体天面に付属のアース端子を使用してアース線を取り付けます。

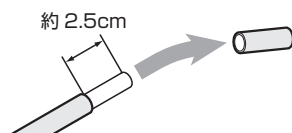


シャーシへの漏洩電流による感電事故を防ぐため、アラーム装置やDC電源を接続する前にアース線を接続するようにしてください。

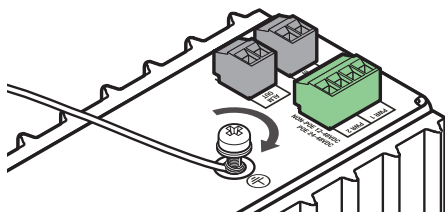


接地工事はD種接地（第3種接地）で行ってください。また、本製品の接地は他の機器とは分離した専用接地にしてください。専用接地がとれないときは、すべての接地線の長さを同じにした共用接地にしてください。

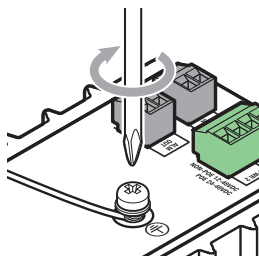
- 1 16AWG（線径1.291mm）より太い標準的なアース線を別途ご用意ください。本製品にアース線は同梱されていません。
- 2 ワイヤーストリッパーを用いて、アース線の先端の被覆を2.5cm程度はがします。



- 3 プラスドライバーを用いて、本体天面のアース端子ネジを緩めます。
- 4 ネジの軸にアース線を右回りに巻き付けます。



- 5 アース端子ネジをプラスドライバーで締めします。



- 6 アース線のもう一方の端を設置場所の適切な接地点に接続します。

2.9 アラーム装置を接続する

アラームモニタリング機能を使用するため、本製品に外部装置を接続します。

アラームモニタリング機能を使用すると、本製品の異常や、外部センサーを用いた周辺環境の変化を、LED表示や、ブザーなど外部アラーム装置への出力といった方法で通知することができます。

アラームモニタリング機能はアラームイベントごとに有効・無効を設定します。デフォルトではすべてのアラームイベントが無効に設定されています。

設定可能なアラームイベント、および設定コマンドについては、コマンドリファレンスを参照してください。

 **参照** コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / アラームモニタリング

本製品はアラーム入力端子と出力端子を備えています。ここでは入力端子に外部センサーを、出力端子に外部アラーム装置を接続する方法を説明します。

アラーム入力

アラーム入力端子 (ALM IN) は、本製品と外部センサーを接続するための入力端子です。立ち入り制限区域の温度/湿度異常や、扉開閉による状態変化などを、外部センサーを介して監視することができます。

本製品は、入力端子の電気回路路上にDC3.3Vの電圧をかけることで、本製品に接続された外部センサー上の接点の開閉状態を検出し、トリガー条件に従ってアラームイベントを発生させます。トリガー条件は、CLIコマンドによって、通常クローズ接点でオープン（オフ）時にイベント発生とするか、通常オープン接点でクローズ（オン）時にイベント発生とするかのいずれかに設定できます。外部センサーの仕様に合わせて設定してください。

外部センサーの開閉が通常状態に戻ると、本製品は自動的にアラームイベントの生成を停止します。

接続する外部センサーは、最低でもDC3.3V/320uAに対応可能な無電圧接点のものを使用してください。



注意 アラーム入力端子 (ALM IN) に電源装置を接続しないでください。機器故障の原因となります。



ヒント アラーム入力端子 (ALM IN) に無極性のメカニカルスイッチなどを接続する場合は、極性を考慮する必要はありません。

アラーム出力

アラーム出力端子 (ALM OUT) は、本製品と外部アラーム装置を接続するための出力端子です。本製品で検出された異常や状態変化を、ブザーやランプなどの外部装置にアラーム出力することで、遠隔に通知することができます。

本製品のアラーム出力端子は無電圧接点で、接続された外部アラーム装置によって回路上に電圧がかけられ、接点の開閉状態が監視されます。アラーム出力回路は通常クローズ接点で、アラームイベントが発生すると、接点がオープン(オフ)になります。必要に応じて、外部アラーム装置の設定を変更してください。

なお、外部アラーム装置による電源供給はDC48V、10mA以下となるようにしてください。



必要に応じて制限抵抗を利用するなどして、アラーム出力端子 (ALM OUT) に10mA以上の電流が流れないようにしてください。機器故障の原因となります。

ケーブル

アラームケーブルは、UL規格に対応したUL規格に対応した24AWG～18AWG(線径0.511mm～1.024mm)の銅線を別途ご用意ください。本製品にアラームケーブルは同梱されていません。

長さは2m以内を目安に配線してください。また、ケーブルを屋外に配線しないでください。

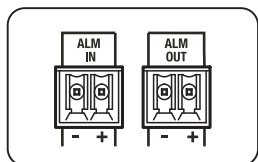
接続のしかた



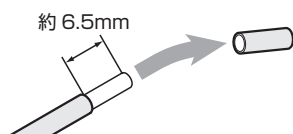
- ・ シャーシへの漏洩電流による感電事故を防ぐため、アラームケーブルを接続する前にアース線を接続するようにしてください。
- ・ 必ず電源が遮断されていることを確認してから作業を行ってください。電源供給が行われている状態で結線すると、感電や機器故障の原因となります。
- ・ アラームケーブルをアラームプラグに取り付けるときは、推奨値以上に絶縁体をはがさないでください。また、結線後は心線が露出していないことをご確認ください。感電や機器故障、ほこりなどの付着による発火の原因となります。
- ・ 有極性の装置を接続する場合は、装置の仕様を確認し、正しい極性に接続するようにしてください。誤った極性に接続すると、機器故障の原因となります。
- ・ 通電中にアラームプラグに触れないでください。アラームプラグのネジに触れると、感電の恐れがあります。

2.9 アラーム装置を接続する

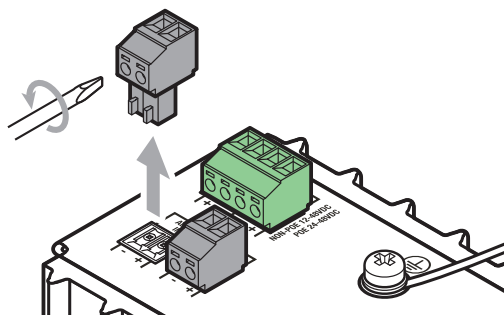
- 1 本体天面アラームソケットに表示されている極性記号(+と-)を確認しておきます。



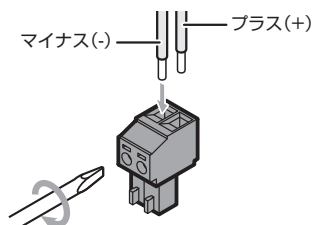
- 2 アラームケーブルを用意します。
ワイヤーストリッパーを用いて、銅線の先端の被覆を6.5mm程度はがします。



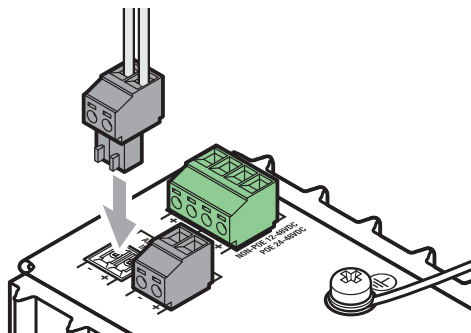
- 3 アラームプラグを本体天面のアラームソケットから取りはずします。
- 4 マイナスドライバーを用いて、アラームプラグ側面の銅線固定用ネジを緩めます。



- 5 銅線をアラームプラグ上面の開口に差し込み、銅線固定用ネジをマイナスドライバーで仮締めします。



- 6 ネジを締め付けトルク0.23～0.33N・mで本締めします。
- 7 アラームケーブルが結線されたアラームプラグを本体天面のアラームソケットに差し込みます。



- 8 アラームケーブルのもう一方の端を外部装置に接続します。
アラーム入力端子には外部センサーを、アラーム出力端子には外部アラーム装置を接続します。

2.10 DC 電源に接続する

本製品を DC 電源装置に接続します。電源ケーブルを接続し、DC 電源装置から電源供給を開始すると自動的に電源が入ります。



- ・ シャーシへの漏洩電流による感電事故を防ぐため、電源ケーブルを接続する前にアース線を接続するようにしてください。
- ・ 必ず電源が遮断されていることを確認してから作業を行ってください。電源供給が行われている状態で結線すると、感電や機器故障の原因となります。
- ・ 電源ケーブルを DC プラグに取り付けるときは、推奨値以上に絶縁体をはがさないでください。また、結線後は心線が露出していないことをご確認ください。感電や機器故障、ほこりなどの付着による発火の原因となります。
- ・ DC 電源装置の仕様を確認し、正しい極性に接続するようにしてください。誤った極性に接続すると、機器故障の原因となります。
- ・ 通電中に DC プラグに触れないでください。DC プラグのネジに触れると、感電の恐れがあります。



- ・ DC 電源への接続は、訓練を受け、十分な知識を持った技術者が行ってください。
- ・ 電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。



DC ソケットはプラスとマイナス端子で構成されています。本製品は電源入力の変長化 (2 系統入力) に対応しているため、変長化する場合は 4 本の銅線を用いて PWR 1 と PWR 2 の 2 系統に接続します。変長化しない場合は 2 本の銅線を用いて PWR 1 と PWR 2 のいずれかに接続します。

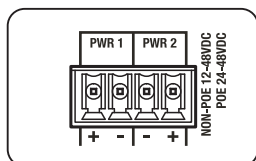
ケーブル

DC 電源ケーブルは、UL 規格に対応した 18AWG (線径 1.024mm) より太い銅線を別途ご用意ください。本製品に DC 電源ケーブルは同梱されていません。長さは 2m 以内を目安に配線してください。

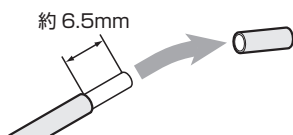
接続のしかた

最初に、電源ケーブルを DC プラグに接続します。

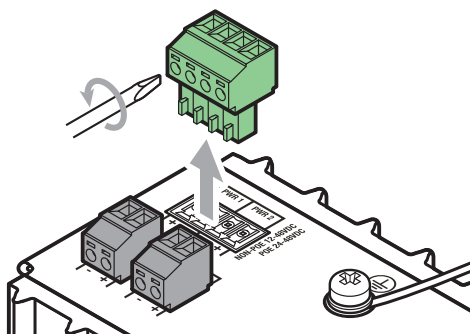
- 1 本体天面 DC ソケットに表示されている極性記号 (+ と -) を確認しておきます。



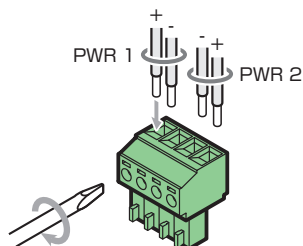
- 2** 電源ケーブルを用意します。
ワイヤーストリッパーを用いて、銅線の先端の被覆を6.5mm程度はがします。



- 3** DCプラグを本体天面のDCソケットから取りはずします。
- 4** マイナスドライバーを用いて、DCプラグ側面の銅線固定用ネジを緩めます。

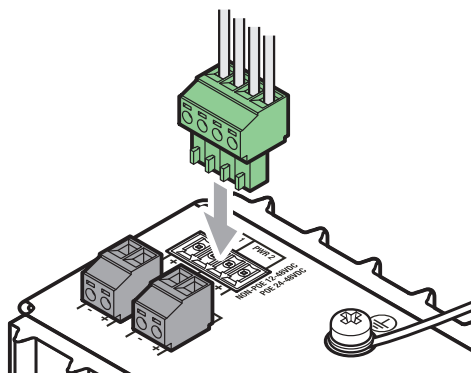


- 5** 銅線をDCプラグ上面の開口に差し込み、銅線固定用ネジをマイナスドライバーで仮締めします。



- 6** ネジを締め付けトルク0.23~0.33N・mで本締めします。
次に、電源ケーブルをDC電源装置に接続します。
- 7** DC電源装置をオフにして、DC電源が遮断されていることを確認します。
- 8** 電源ケーブルが結線されたDCプラグを本体天面のDCソケットに差し込みます。

2.10 DC 電源に接続する



9 電源ケーブルのもう一方の端を DC 電源装置に接続します。

10 DC 電源装置をオンにします。

本製品への電源供給が開始されると、本体前面の PWR 1 または PWR 2 LED (緑) が点灯します。

システム電源の冗長化

本製品は筐体内での電源の冗長化 (2 系統入力) が可能です。

電源を冗長化する場合は、PWR 1 と PWR 2 の 2 系統に電源ケーブルを接続します。2 組の電源ケーブルを異なる電源系統に接続することにより、どちらか一方で、サーキットブレーカーの遮断などによる商用電源の供給停止が発生しても、システムがシャットダウンするのを防ぐことができます。

通常運用時には、PWR 1 と PWR 2 の両方の電源コネクタから同時に本製品への電源供給が行われます。

一方の電源に異常が発生した場合は、もう一方の電源で電源の供給を継続します。どちらの電源に異常が発生しているかは、CLI 上の `show system environment` コマンド (非特権 EXEC モード) で確認できます。

2.11 設定の準備

コンソールターミナルを設定する

本製品に対する設定は、管理用端末から本製品の管理機構であるコマンドラインインターフェース (CLI) にアクセスして行います。

管理用端末には、次のいずれかを使用します。

- コンソールポートに接続したコンソールターミナル
- ネットワーク上の Telnet クライアント
- ネットワーク上の Secure Shell (SSH) クライアント

コンソールターミナル (通信ソフトウェア) に設定するパラメーターは次のとおりです。「エミュレーション」、「BackSpace キーの送信方法」は edit コマンド (特権 EXEC モード) のための設定です。

項目	値
通信速度	9,600bps
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	Xon/Xoff または none
エミュレーション	VT100
BackSpace キーの送信方法	Delete



ヒント

Telnet/SSH を使用するには、あらかじめコンソールターミナルからログインし、本製品に IP アドレスなどを設定しておく必要があります。本製品のご購入時には IP アドレスが設定されていないため、必ず一度はコンソールターミナルからログインすることとなります。

また、SSH を使用する場合は、本製品の SSH サーバーを有効化するための設定も必要です。SSH サーバーの設定については「コマンドリファレンス」をご覧ください。



参照 53 ページ「IP インターフェースを作成する」



参照 コマンドリファレンス / 運用・管理 / Secure Shell

本製品を起動する



ヒント

電源投入からリンクが確立されるまでの時間は、ファームウェアバージョンや設定内容に依存します。起動時にファームウェアの読み込みを行うため、数分かかる場合があります。

システム導入時の起動、および運用時の電源再投入時においては、リンク確立までの時間を考慮した構築、メンテナンスを実施するようにしてください。

1 コンピューター (コンソール) の電源を入れ、通信ソフトウェアを起動します。

2 本製品の電源を入れます。



参照 46 ページ「DC 電源に接続する」

2.11 設定の準備

- 3 自己診断テストの実行後、システムソフトウェアが起動し、起動時コンフィグが実行されます。

参照 56ページ「自己診断テストの結果を確認する」

```
Booting image at 83000000 ...
Verifying release... OK
Uncompressing kernel... Booting...
Disabling Switch ports.
Flushing Receive Buffers...
0 buffers found.
Closing DMA Channels.
Starting base/first... [ OK ]
Mounting virtual filesystems... [ OK ]

      /\
     /  \
    /    \
   /      \
  /        \
 /          \
/            \
\            /
 \          /
  \        /
   \      /
    \    /
     \  /
      \/

Allied Telesis Inc.
AlliedWare Plus (TM) v5.4.6
Current release filename: IE200-5.4.6-0.1.rel
Built: Fri Mar 18 02:07:03 UTC 2016
Verifying bootloader... [ OK ]
Mounting static filesystems... [ OK ]
Checking flash filesystem... [ OK ]
Mounting flash filesystem... [ OK ]
Checking NVS filesystem... [ OK ]
Mounting NVS filesystem... [ OK ]
Starting base/dbus... [ OK ]
Starting base/syslog... [ OK ]
Starting base/loopback... [ OK ]
Starting base/poe_done... [ OK ]
Starting base/sysctl... [ OK ]
Received event poefw.done
Received event syslog.done
Starting base/reboot-stability... [ OK ]
Checking system reboot stability... [ OK ]
Starting base/cron... [ OK ]
Starting base/apteryx... [ OK ]
Starting base/appmond... [ OK ]
Starting base/clockcheck... [ OK ]
Starting hardware/openhpi... [ OK ]
Starting hardware/timeout... [ OK ]
Starting base/inet... [ OK ]
Starting base/modules... [ OK ]
Received event apteryx.done
Starting network/kermond... [ OK ]
Starting hardware/plugman... [ OK ]
Received event board.inserted
Starting hardware/hardware-done... [ OK ]
Received event modules.done
Received event hardware.done
Starting network/startup... [ OK ]
Starting base/external-media... [ OK ]
cmfcfg: Enabling CMF
cmfcfg: Setting Default Flow Miss action to PASS
cmfcfg: Setting UNI Port Global Default ASPF actions to ACCEPT
Received event network.enabled

Initializing HA processes:
almond, atmfd, auth, cntrd, epsr, hostd, hsl
lacpd, lldpd, loopprot, mstp, nsm, rmon, udldd
imi

Received event network.initialized

Assigning Active Workload to HA processes:
authd, epsrd, hsl, lacpd, lldpd, loopprot, mstpd
nsm, rmond, imi

Received event network.activated

Loading default configuration, please wait.
.
done!
Received event network.configured

awplus login:
```

- 4 本製品起動後、「awplus login:」プロンプトが表示されます。

2.12 操作の流れ

本製品に設定を行う際の操作の流れについて説明します。

設定方法についての詳細は、弊社ホームページに掲載の「コマンドリファレンス」をご覧ください。「コマンドリファレンス」の「運用・管理 / システム」で、システム関連の基本的な操作や設定方法について順を追って説明しています。初期導入時には、まずはじめに「運用・管理 / システム」を参照してください。

ファームウェアの更新手順についても「運用・管理 / システム」に説明があります。

 [コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / ファームウェアの更新手順](#)

STEP 1 コンソールを接続する


コンソールケーブル (CentreCOM VT-Kit2 plus、またはCentreCOM VT-Kit2) で、コンソールポートとコンソールのシリアルポートを接続します。

 [39ページ「コンソールを接続する」](#)



STEP 2 コンソールターミナルを設定する

コンソールの通信ソフトウェアを本製品のインターフェース仕様に合わせて設定します。

 [49ページ「コンソールターミナルを設定する」](#)



STEP 3 ログインする

「ユーザー名」と「パスワード」を入力してログインします。
ユーザー名は「manager」、初期パスワードは「friend」です。
ユーザー名、パスワードは大文字小文字を区別します。

```
awplus login: manager ...「manager」と入力して [Enter]キーを押します。
```

```
Password: friend ...「friend」と入力して [Enter]キーを押します。
```

 [コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / ログイン](#)



STEP 4 設定をはじめめる (コマンドモード)

コマンドラインインターフェースで、本製品に対して設定を行います。
本製品のコマンドラインインターフェースには「コマンドモード」の概念があります。各コマンドはあらかじめ決められたモードでしか実行できないため、コマンドを実行するときは適切なモードに移動し、それからコマンドを入力することになります。

○ ログイン直後は「**非特権 EXEC モード**」です。

```
awplus login: manager [Enter]  
Password: friend [Enter] (実際には表示されません)
```

```
AlliedWare Plus (TM) 5.4.6 xx/xx/xx xx:xx:xx  
awplus>
```

コマンドプロンプト末尾の「>」が、非特権EXECモードであることを示しています。

2.12 操作の流れ



非特権 EXEC モードでは、原則として情報表示コマンド (show xxxx) の一部しか実行できません。

- 非特権 EXEC モードで enable コマンドを実行すると、「**特権 EXEC モード**」に移動します。

```
awplus> enable [Enter]
awplus#
```

コマンドプロンプト末尾の「#」が、特権 EXEC モードであることを示しています。特権 EXEC モードでは、すべての情報表示コマンド (show xxxx) が実行できるほか、システムの再起動や設定保存、ファイル操作など、さまざまな「実行コマンド」(コマンドの効果がその場かぎりであるコマンド。ネットワーク機器としての動作を変更する「設定コマンド」と対比してこう言う)を実行することができます。


- 特権 EXEC モードで configure terminal コマンドを実行すると、「**グローバルコンフィグモード**」に移動します。

```
awplus# configure terminal [Enter]
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
awplus(config)#
```

コマンドプロンプト末尾の「(config)#」が、グローバルコンフィグモードであることを示しています。

グローバルコンフィグモードは、システム全体にかかわる設定コマンドを実行するためのモードです。本解説編においては、ログインパスワードの変更やホスト名の設定、タイムゾーンの設定などをこのモードで行います。

実際には、ここに示した3つのほかにも多くのコマンドモードがあります。詳細については、「コマンドリファレンス」をご覧ください。

 [コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / コマンドモード](#)




STEP 5 各種設定を行う (コマンド入力例)

以下にコマンドの入力例を示します。

- **ユーザーアカウントを作成する** (グローバルコンフィグモード)
権限レベル15のユーザー「zein」を作成する。パスワードは「xyzxyzxyz」。

```
awplus(config)# username zein privilege 15 password xyzxyzxyz [Enter]
```

 [コマンドリファレンス / 運用・管理 / ユーザー認証 / ユーザーアカウントの管理](#)

- **ログインパスワードを変更する** (グローバルコンフィグモード)
ログイン後、manager アカウントのパスワードを変更する。パスワードは「xyzxyzxyz」。

```
awplus(config)# username manager password xyzxyzxyz [Enter]
```

 [コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / パスワードの変更](#)




○ **ホスト名を設定する** (グローバルコンフィグモード)

ホスト名として「myswitch」を設定する。

```
awplus(config)# hostname myswitch Enter
myswitch(config)#
```

コマンド実行とともに、コマンドプロンプトの先頭が「awplus」から「myswitch」に変更されま
す。

 **参照** コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / ホスト名の設定

○ **IP インターフェースを作成する**

vlan1 に IP アドレス 192.168.10.1/24 を設定する。

```
myswitch(config)# interface vlan1 Enter
myswitch(config-if)# ip address 192.168.10.1/24 Enter
```

 **参照** コマンドリファレンス / IP / IP インターフェース

デフォルトゲートウェイとして 192.168.10.5 を設定する。

```
myswitch(config-if)# exit Enter
myswitch(config)# ip route 0.0.0.0/0 192.168.10.5 Enter
```

 **参照** コマンドリファレンス / IP / 経路制御

○ **システム時刻を設定する**

本製品はリアルタイムクロック (電池によってバックアップされる時計) を内蔵していないため、
システムを再起動するたびに日付と時刻を合わせる必要があります。NTP サーバーにアクセス
できる環境では、NTP の利用をおすすめします。

タイムゾーンを日本標準時 (JST。UTC より 9 時間進んでいる) に設定する (グローバルコンフ
ィグモード)。

```
myswitch(config)# clock timezone JST plus 9 Enter
```

NTP では、時刻のずれがあまりに大きいと同期がうまくとれないことがあるので、最初に現在
時刻を手動設定します。

システム時刻 (日付と時刻) を「2016 年 10 月 12 日 17 時 5 分 0 秒」に設定する (特権 EXEC モード)。

```
myswitch(config)# exit Enter
myswitch# clock set 17:05:00 12 Oct 2016 Enter
```

NTP サーバーの IP アドレスを指定する (グローバルコンフィグモード)。

```
myswitch# configure terminal Enter
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
myswitch(config)# ntp server 192.168.10.2 Enter
Translating "192.168.10.2"... [OK]
```

 **参照** コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / システム時刻の設定



2.12 操作の流れ

STEP 6 設定を保存する

設定した内容を保存します。

ランニングコンフィグ(現在の設定内容)をスタートアップコンフィグ(起動時コンフィグ)にコピーして保存します。

copyコマンドの代わりにwrite fileコマンドやwrite memoryコマンドを使うこともできます。

```
myswitch# copy running-config startup-config 
```



コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / 設定の保存



STEP 7 ログアウトする

コマンドラインインターフェースでの操作が終了したら、ログアウトします。

```
myswitch# exit 
```



コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / コマンドモード

3

付 録

この章では、トラブル解決、本製品の仕様、保証とユーザーサポートについて説明しています。

モジュールごとに、下記の3つステータスで結果が表示されます。

OK	該当のモジュールが正常にロードされました
INFO	該当のモジュールでエラーが発生しています。ただし、本製品の動作は可能な状態です
ERROR	該当のモジュールでエラーが発生し、本製品の動作に影響が与える可能性があります

上記以外に、特定の情報がINFOまたはERRORで起動メッセージ内に表示される場合があります。




起動メッセージは、本製品に Telnet でログインしているときは表示されません。

ヒント

LED 表示を確認する

LEDの状態を観察してください。LEDの状態は問題解決に役立ちますので、お問い合わせの前にどのように表示されるかを確認してください。

 [22ページ「LED表示」](#)

ログを確認する

本製品が生成するログを見ることにより、原因を究明できる場合があります。

メモリーに保存されているログ、すなわち、bufferedログ(RAM上に保存されたログ)と permanentログ(NVSに保存されたログ)の内容を見るには、それぞれ特権EXECモードの show log コマンド、show log permanent コマンドを使います。



これらのコマンドは、グローバルコンフィグモードでも実行可能です。

ヒント

```
awplus# show log [Enter]

<date> <time> <facility>.<severity> <program[<pid>]>: <message>
-----
2010 Jan  8 03:00:37 kern.notice awplus kernel: Linux version 3.16.7-at1 (maker@
maker05-build) (gcc version 4.6.3 (Gentoo 4.6.3-r1 p1.9, pie-0.5.2) ) #1 SMP PRE
EMPT Fri Mar 18 01:46:12 UTC 2016
2010 Jan  8 03:00:37 kern.notice awplus kernel: Kernel command line: console=tty
S0,115200 root=/dev/ram0 releasefile=IE200-5.4.6-0.1.rel bootversion=IE200/1.0_2
9 loglevel=1 extraflash=00000000 securitylevel=1 memmap=256K$0x4000000 memmap=25
6K$0x4040000 ramdisk=15600 relhdr=2197815296,2199940802 ehci_hcd.ignore_oc=1
2010 Jan  8 03:00:37 kern.warning awplus kernel: registering PCI controller with
io_map_base unset
2010 Jan  8 03:00:37 kern.warning s_src@awplus kernel: Last message 'registering
PCI cont' repeated 1 times, suppressed by syslog-ng on awplus
2010 Jan  8 03:00:37 kern.notice awplus kernel: SCSI subsystem initialized
2010 Jan  8 03:00:37 kern.warning awplus kernel: ehci-pci 0000:00:0a.0: Enabling
legacy PCI PM
2010 Jan  8 03:00:38 kern.notice awplus kernel: Bridge firewalling registered
2010 Jan  8 03:00:38 kern.notice awplus kernel: RAMDISK: squashfs filesystem fou
nd at block 0
```

3.1 困ったときに

本製品が生成するログメッセージは次の各フィールドで構成されています。

<date> <time> <facility>.<severity> <program[<pid>]>: <message>

各フィールドの意味は次のとおりです。

フィールド名	説明
date	メッセージの生成日付
time	メッセージの生成時刻
facility	ファシリティ。どの機能グループに関連するメッセージかを示す(別表を参照)
severity	ログレベル。メッセージの重大さを示す(別表を参照)
program[pid]	メッセージを生成したプログラムの名前とプロセスID (PID)
message	メッセージ本文

ファシリティ (facility) には次のものがあります。

名称	説明
auth	認証サブシステム
authpriv	認証サブシステム (機密性の高いもの)
cron	定期実行デーモン (crond)
daemon	システムデーモン
ftp	ファイル転送サブシステム
kern	カーネル
lpr	プリンタースプーラーサブシステム
mail	メールサブシステム
news	ネットニュースサブシステム
syslog	syslogデーモン (syslogd)
user	ユーザープロセス
uucp	UUCPサブシステム

ログレベル (severity) には次のものがあります。

各レベルには番号と名称が付けられており、番号は小さいほど重大であることを示します。

数字	名称	説明
0	emergencies	システムが使用不能であることを示す
1	alerts	ただちに対処を要する状況であることを示す
2	critical	重大な問題が発生したことを示す
3	errors	一般的なエラーメッセージ
4	warnings	警告メッセージ
5	notices	エラーではないが、管理者の注意を要するかもしれないメッセージ
6	informational	通常運用における詳細情報
7	debugging	きわめて詳細な情報



本製品はリアルタイムクロックを内蔵していません。ログメッセージの生成時刻は以下のようになります。

- ・ NTP有効時にはNTPサーバーから取得した時刻(日付)が表示されます。
- ・ NTP有効時に時刻取得に失敗した場合は、最後に取得に成功したときの時刻からの稼働時間が表示されます。

- ・ NTP無効時には、clock setコマンド(特権EXEC モード)で設定した時刻からの稼働時間がログに表示されます。システムを再起動した場合は、最後にclock setコマンドで設定した時刻からの稼働時間が表示されます。
- ・ NTP無効時、clock setコマンドによるシステム時刻が設定されていなければ、デフォルトの時刻「2010-01-01 00:00:00」からの稼働時間が表示されます。

トラブル例

電源ケーブルを接続してもステータスLEDが点灯しない

正しい電源ケーブルを使用していますか

UL規格に対応した18AWG(線径1.024mm)以上の電源ケーブルをご用意ください。

電源ケーブルが正しく接続されていますか

電源ケーブルが正しく接続されているか、極性が正しく接続されているか確認してください。

DC電源に異常はありませんか

DC電源から本製品に対して電源が正常に供給されているか確認してください。

 参照 46ページ「DC電源に接続する」

PWR LEDは点灯するが、正しく動作しない

電源をオフにしたあと、すぐにオンにできていません

電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

ケーブルを接続してもL/A LEDが点灯しない

接続先の機器の電源は入っていますか

ネットワークインターフェースカードに障害はありませんか

通信モードは接続先の機器と通信可能な組み合わせに設定されていますか

speedコマンドおよびduplexコマンド(インターフェースモード)でポートの通信モードを設定することができます。接続先の機器を確認して、通信モードが正しい組み合わせになるように設定してください。

正しいUTPケーブルを使用していますか

○ UTPケーブルのカテゴリ

10BASE-Tの場合はカテゴリ 3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリ 5以上、1000BASE-Tの場合はエンハンスト・カテゴリ 5 以上のUTPケーブルを使用してください。


3.1 困ったときに

○ UTPケーブルのタイプ

MDI/MDI-X自動認識機能により、接続先のポートの種類(MDI/MDI-X)にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。本製品のMDI/MDI-X自動認識機能は、ポートの通信速度、デュプレックスの設定にかかわらず、どの通信モードでも有効にすることができます。

○ UTPケーブルの長さ

ケーブル長は最大100mと規定されています。

 **参照** 34ページ「ネットワーク機器を接続する」

正しい光ファイバーケーブルを使用していますか

○ 光ファイバーケーブルのタイプ

マルチモードファイバーの場合は、コア/クラッド径が50/125 μm 、または62.5/125 μm のものを使用してください。

シングルモードファイバーの場合は、ITU-T G.652準拠のものを使用してください。

SFPの種類によって、使用する光ファイバーが異なります。マルチモードファイバーが使用できるのは、AT-SPFX/2、AT-SPSX、AT-SPSX2、AT-SPLX10、AT-SPBDM-A・Bです。ご注意ください。

なお、AT-SPLX10の接続にマルチモードファイバーを使用する場合は、対応するモード・コンディショニング・パッチコードを使用してください。

また、AT-SPLX40、AT-SPZX80、AT-SPBD40-13/I・14/I、AT-SPBD80-A・Bは、使用環境によっては、アッテネーターが必要となる場合があります。


○ 光ファイバーケーブルの長さ

最大伝送距離は、34ページ「ネットワーク機器を接続する」でご確認ください。光ファイバーケーブルの仕様や使用環境によって伝送距離が異なりますので、ご注意ください。

○ 光ファイバーケーブルは正しく接続されていますか


AT-SPFXBDシリーズとAT-SPBDシリーズ以外のSFPで使用する光ファイバーケーブルは2本で1対になっています。本製品のTXを接続先の機器のRXに、本製品のRXを接続先の機器のTXに接続してください。

T-SPFXBDシリーズとAT-SPBDシリーズは、送受信で異なる波長の光を用いるため、1本の光ファイバーケーブルで通信ができます。

 **参照** 34ページ「ネットワーク機器を接続する」

エコLEDが有効に設定されていませんか

ecofriendly ledコマンド(グローバルコンフィグモード)の設定を確認してください。エコLEDを無効に設定すると、ステータスLEDを除くすべてのLEDが消灯します。

 **参照** 22ページ「LED表示」

L/A LEDは点灯するが、通信できない

ポートが無効 (Disabled) に設定されていませんか

show interface コマンド (非特権 EXEC モード) でポートステータス (administrativestate)を確認してください。

無効に設定されているポートを有効化するには、shutdown コマンド (インターフェイスモード) を no 形式で実行してください。

PoE 給電ができない

PoE 給電機能が無効に設定されていませんか

show power-inline コマンド (非特権 EXEC モード) で、PoE 給電機能の有効・無効 (Admin)を確認してください。

PoE ポートの出力電力が設定された上限値を上回っていませんか

show power-inline コマンド (非特権 EXEC モード) で、ポートの出力電力上限値 (Max (mW))を確認してください。

正しい UTP ケーブルを使用していますか

下表を参照して、正しいカテゴリの UTP ケーブルを使用してください。

—	PoE 非対応の機器	PoE 受電機器	
		IEEE 802.3af 対応	IEEE 802.3at 対応
10BASE-T	カテゴリ 3 以上	カテゴリ 5 以上	エンハンスド・カテゴリ 5 以上
100BASE-TX	カテゴリ 5 以上	カテゴリ 5 以上	エンハンスド・カテゴリ 5 以上
1000BASE-T		エンハンスド・カテゴリ 5 以上	



PoE 受電機器の接続には、8線結線のストレートタイプの UTP ケーブルをおすすめします。

 参照 36 ページ「PoE 対応の受電機器を接続する」

コンソールターミナルに文字が入力できない

ケーブルや変換コネクタが正しく接続されていますか

本製品のコンソールポートは、RJ-45 コネクタを使用しています。ケーブルは弊社販売品の「CentreCOM VT-Kit2 plus」、または「CentreCOM VT-Kit2」を使用してください。ご使用のコンソールのシリアルポートが D-Sub 9 ピン (オス) 以外の場合は、別途変換コネクタをご用意ください。

なお、「CentreCOM VT-Kit2 plus」は、USB ポートへの接続が可能です。USB ポート使用時の対応 OS は弊社ホームページにてご確認ください。

 参照 39 ページ「コンソールを接続する」

通信ソフトウェアを 2 つ以上同時に起動していませんか

同一の COM ポートを使用する通信ソフトウェアを複数起動すると、COM ポートにおいて競合が発生し、通信できない、または不安定になるなどの障害が発生します。

3.1 困ったときに

通信ソフトウェアの設定内容(通信条件)は正しいですか

本製品を接続しているCOMポート名と、通信ソフトウェアで設定しているCOMポート名が一致しているかを確認してください。

また、通信速度の設定が本製品とCOMポートで一致しているかを確認してください。本製品の通信速度は9600です。

コンソールターミナルで文字化けする

COMポートの通信速度は正しいですか

通信速度の設定が本製品とCOMポートで一致しているかを確認してください。COMポートの設定が9600以外に設定されていると文字化けを起こします。

文字入力モードは英数半角モードになっていますか

全角文字や半角カナは入力しないでください。通常、AT互換機では`[Alt]`キーを押しながら`[全角/半角]`キーを押して入力モードの切り替えを行います。

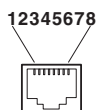
3.2 仕様

ここでは、コネクターのピンアサインやケーブルの結線、電源部や環境条件など本製品の仕様について説明します。

コネクター・ケーブル仕様

10/100/1000BASE-T (PoE) インターフェース

RJ-45型のモジュージャックを使用しています。



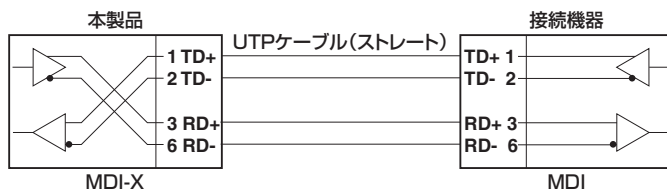
コンタクト	1000BASE-T		10BASE-T/100BASE-TX	
	MDI	MDI-X	MDI信号	MDI-X信号
1	BI_DA +	BI_DB +	TD + (送信)	RD + (受信)
2	BI_DA -	BI_DB -	TD - (送信)	RD - (受信)
3	BI_DB +	BI_DA +	RD + (受信)	TD + (送信)
4	BI_DC +	BI_DD +	未使用	未使用
5	BI_DC -	BI_DD -	未使用	未使用
6	BI_DB -	BI_DA -	RD - (受信)	TD - (送信)
7	BI_DD +	BI_DC +	未使用	未使用
8	BI_DD -	BI_DC -	未使用	未使用

コンタクト	PoE
	オルタナティブA
1	-V
2	-V
3	+V
4	未使用
5	未使用
6	+V
7	未使用
8	未使用

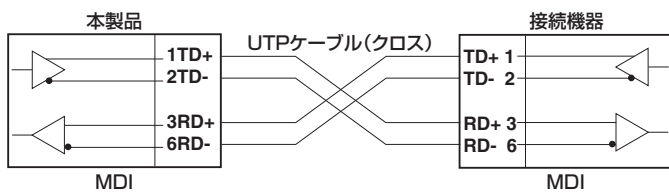
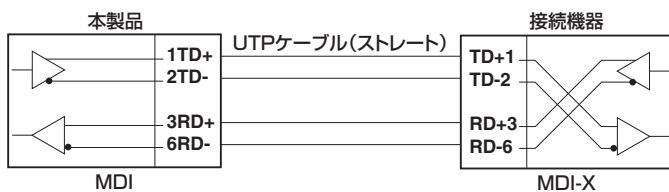
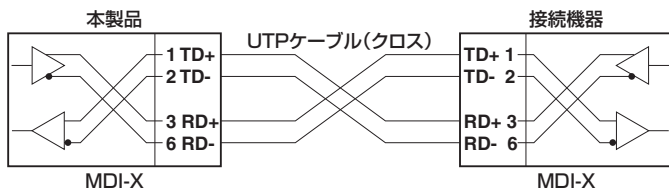
10/100/1000BASE-T (PoE) ケーブル結線

ケーブルの結線は下図のとおりです。

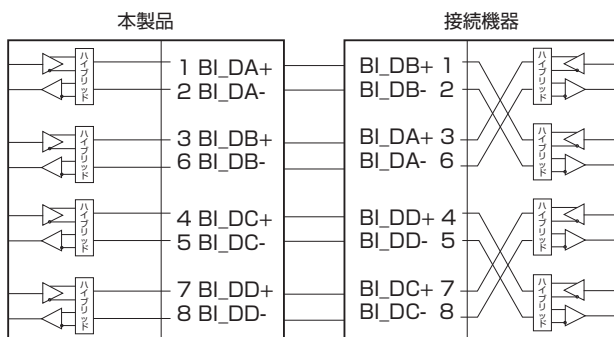
- 10BASE-T/100BASE-TX



3.2 仕様

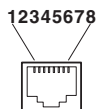


○ 1000BASE-T



RS-232 インターフェース

RJ-45型のモジュージャックを使用しています。



RS-232 DCE	信号名 (JIS規格)	信号内容
1	RTS (RS)	送信要求
2	NOT USED	未使用
3	TXD (SD)	送信データ
4	GND (SG)	信号用接地
5	GND (SG)	信号用接地
6	RXD (RD)	受信データ
7	NOT USED	未使用
8	CTS (CS)	送信可

USB インターフェース

USB 2.0のタイプA (メス) コネクタを使用しています。

3.2 仕様

本製品の仕様

	AT-IE200-6GT	AT-IE200-6GP
準拠規格		
	IEEE 802.3 10BASE-T IEEE 802.3u 100BASE-TX/FX*1 IEEE 802.3ah 100BASE-BX*1 IEEE 802.3z 1000BASE-LX/SX*1 IEEE 802.3ab 1000BASE-T IEEE 802.3ah 1000BASE-BX10*1 IEEE 802.3x Flow Control IEEE 802.3af Power over Ethernet*2 IEEE 802.3at Power over Ethernet+*2 IEEE 802.1D-2004 Spanning Tree, Rapid Spanning Tree*3 IEEE 802.1Q-2003 GVRP IEEE 802.1Q-2005 VLAN Tagging, Multiple Spanning Tree*4 IEEE 802.1X Port Based Network Access Control IEEE 802.1AB Link Layer Discovery Protocol IEEE 802.1p Class of Service, priority protocol IEEE 802.1ax-2008 Link Aggregation (static and dynamic)*5	
適合規格		
CE		
安全規格	UL60950-1, CSA-C22.2 No.60950-1	
EMI規格	VCCIクラスA EN55032 Class A	
EMS規格	IEC61000-3-2, IEC61000-3-3, IEC61000-4-2, IEC61000-4-3, IEC61000-4-4, IEC61000-4-5, IEC61000-4-6, IEC61000-4-8, IEC61000-4-11	
保護等級	IEC60529 IP30	
振動	IEC60068-2-6	
衝撃	IEC60068-2-27	
自由落下	IEC60068-2-31	
EU RoHS 指令		
電源部		
定格入力電圧	DC12-48V	DC24-48V
入力電圧範囲	DC10.5-49.25V	DC23.25-49.25V
定格入力電流	2.5A	7.0A
最大入力電流(実測値)	1.3A	6.8A
平均消費電力	10W(最大15W)*7	79W(最大170W)*8
平均発熱量	37kJ/h(最大53kJ/h)*7	280kJ/h(最大600kJ/h)*8
PoE (AT-IE200-6GPのみ)		
給電方式	—	オルタナティブA
最大供給電力	—	装置全体: 120W 1ポートあたり: 30W
環境条件		
保管時温度	-40~85℃	
保管時湿度	5~95%(結露なきこと)	
動作時温度	-40~70℃*9	
動作時湿度	5~95%(結露なきこと)	
外形寸法		
	54(W)×125(D)×150(H)mm	95(W)×125(D)×150(H)mm
質量		
	850g	1.5kg

スイッチング方式	
	ストア&フォワード
MACアドレス登録数	
	2K* ¹⁰
メモリー容量	
フラッシュメモリー	64MByte
メインメモリー	256MByte
USBポート	
コネクタ	タイプA(メス)
USB	USB USB2.0
サポートするMIB	
	MIB I (RFC1213) IP フォワーディングテーブルMIB (RFC2096) 拡張ブリッジMIB (RFC2674)* ¹¹ RMON MIB (RFC2819 [1,2,3,9グループ]) インターフェース拡張グループMIB (RFC2863) SNMPv3 MIB (RFC3411~RFC3415) SNMPv2 MIB (RFC3418) PoE MIB (RFC3621)* ² イーサネットMIB (RFC3635) 802.3 MAU MIB (RFC3636) ブリッジMIB (RFC4188) RSTP MIB (RFC4318) DISMAN ping MIB (RFC4560) LLDP MIB (IEEE 802.1AB) LLDP-MED MIB (ANSI/TIA-1057) プライベートMIB

- ※1 対応SFPモジュール使用時
- ※2 AT-IE200-6GPのみ
- ※3 IEEE 802.1w Rapid Spanning Treeを含む
- ※4 IEEE 802.1s Multiple Spanning Treeを含む
- ※5 IEEE 802.3adと同等
- ※6 当該製品においては「中国版RoHS 指令 (China RoHS)」で求められるEnvironment Friendly Use Period (EFUP) ラベル等を記載している場合がありますが、日本国内での使用および日本から中国を含む海外へ輸出した場合も含め、弊社では未サポートとさせていただきます。証明書等の発行も原則として行いません。
- ※7 AT-SPZX80 × 2個 使用時
- ※8 AT-SPZX80 × 2個 使用時
システム全体のPoE負荷：平均消費電力/発熱量 = 62W時、最大消費電力/発熱量 = 120W時
- ※9 SFPスロットおよびUSBポート未使用時、AT-IE200-6GPの場合はPoE非給電時の値。
使用条件に応じた動作時温度の上限は下表のとおりです。

AT-IE200-6GT		AT-IE200-6GP	
—		PoE 120W 給電時	60℃
—		PoE 62W 給電時	65℃
AT-SPSX2・AT-SPLX10/I使用時	65℃*	AT-SPSX2・AT-SPLX10/I使用時	60℃*
AT-SPSX2・AT-SPLX10/I以外のSFP使用時	45℃*	AT-SPSX2・AT-SPLX10/I以外のSFP使用時	45℃*
USBポート使用時	45℃	USBポート使用時	45℃

※ SFP使用時の動作時温度の下限はSFPの仕様に基づきます。

- ※10 表中では、K=1024
- ※11 Q-BRIDGE-MIBのみサポート


3.3 保証とユーザーサポート

保証、修理について

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。本製品の故障の際は、保証期間の内外にかかわらず、弊社修理受付窓口へご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 修理受付窓口

<http://www.allied-telesis.co.jp/support/repair/>

Tel:  0120-860332
携帯電話 / PHSからは: 045-476-6218
月～金(祝・祭日を除く) 9:00～12:00 13:00～17:00

保証の制限


本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害(事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない)につきましても、弊社はその責を一切負わないものとします。

ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、次の「サポートに必要な情報」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

<http://www.allied-telesis.co.jp/support/info/>

Tel:  0120-860772
携帯電話 / PHSからは: 045-476-6203
月～金(祝・祭日を除く) 9:00～12:00 13:00～17:00

サポートに必要な情報

お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止め、迅速な障害の解消を行うために、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点についてお知らせください。なお、都合によりご連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

1 一般事項

- サポートの依頼日
- お客様の会社、ご担当者

- **ご連絡先**
すでに「サポートID番号」を取得している場合、サポートID番号をお知らせください。
サポートID番号をお知らせいただいた場合には、ご連絡住所などの詳細は省略して
いただいてもかまいません。
- **ご購入先**

2 使用しているハードウェア・ソフトウェアについて

- シリアル番号 (S/N)、リビジョン (Rev) をお知らせください。
シリアル番号とリビジョンは、本体に貼付されている (製品に同梱されている) シリ
アル番号シールに記載されています。

(例)  S/N 007807G104000001 A1

S/N以降のひと続きの文字列がシリアル番号、スペース以降のアルファベットで始
まる文字列 (上記例の「A1」部分) がリビジョンです。

- ファームウェアバージョンをお知らせください。
ファームウェアバージョンは、show system (非特権 EXEC モード) コマンドで表示
されるシステム情報の「Software version」の項で確認できます。
- オプション (別売) 製品を使用している場合は、製品名をお知らせください。

3 問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかをできる限
り具体的に (再現できるように) お知らせください。
- エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの
内容をお知らせください。
- 可能であれば、設定ファイルをお送りください (パスワードや固有名など差し障り
のある情報は、抹消してお送りくださいますようお願いいたします)。

4 ネットワーク構成について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図
をお送りください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをお知らせく
ださい。

ご注意

本書に関する著作権等の知的財産権は、アライドテレシス株式会社（弊社）の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。

アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく、本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。

弊社は、予告なく本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。

また、弊社は改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

© 2017 アライドテレシスホールディングス株式会社

商標について

CentreCOMはアライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。

本書の中に掲載されているソフトウェアまたは周辺機器の名称は、各メーカーの商標または登録商標です。

電波障害自主規制について

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

廃棄方法について

本製品を廃棄する場合は、法令・条例などに従って処理してください。詳しくは、各地方自治体へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

輸出管理と国外使用について

お客様は、弊社販売製品を日本国外への持ち出または「外国為替及び外国貿易法」にいう非居住者へ提供する場合、「外国為替及び外国貿易法」を含む日本政府および外国政府の輸出関連法規を厳密に遵守することに同意し、必要とされるすべての手続きをお客様の責任と費用で行うことといたします。

弊社販売製品は日本国内仕様であり、日本国外においては製品保証および品質保証の対象外になり、製品サポートおよび修理など一切のサービスが受けられません。

マニュアルバージョン

2017年 1月 Rev.A 初版

2017年 7月 Rev.B AT-SPLX10/I追加

